

< 2学期を迎えるにあたって >

1週間前、1学期の終業式で話した秋休みの宿題を覚えていますか。「自分にとって何が大事なのか。」「何を大切にしていきたいのか。」考えてみましたか。今発表してくれた4人のように、1学期の反省をもとに、2学期の目標をしっかりと立ててスタートしてください。

休み中いろいろなことがありました。まずは新人戦、台風の影響によりそれぞれの競技で日程を変更して開催しました。そのようなコンディションの悪い中でも、頑張った様子が伝わってきます。女子卓球部は、個人団体とも優勝という快挙を達成しました。まだ試合が残っている部も精一杯頑張ってもらいたいと思います。

また、ラグビーのワールドカップ日本チームの大健闘がありました。世界中の多くの人達に感動を与えました。日本チームのスローガンは「ワンチーム」。試合を見ていて誰もがワンチームとしての団結力を感じたはずですが、でもはじめからその団結力があつたわけではなく、いろいろな困難を乗り越えてきたのだそうです。スタンドオフの田村選手が「自分たちがこの4年間で何をしてきたか。多くの犠牲の上に今がある。」と言っていたように多くの困難を乗り越えてきたことが分かります。

前のワールドカップのヘッドコーチ、エディー・ジョーンズは、負け続けてきた日本チームの歴史を塗り替え、一挙にワールドカップで3勝という実績をあげました。もちろん選手からの信頼は抜群でした。彼は、過酷な練習量と規律を重視する厳しい指導をしましたが、新しくHCになったジェイミー・ジョセフは、自主性と自由な雰囲気をもっとにしていたため、はじめはエディーと比較され、チームはまとまらなかったそうです。

日本チームの半数は海外出身の選手で、様々な背景を持つ人間をまとめるのはただでさえ難しさがあります。「なぜ言うことを聞いてくれないのか」と不満を持つHCと選手の間を取り持ったのは日本人スタッフだったそうです。HCが選手たちに対して抱く信頼を選手に伝え、指揮官には選手の声聞く重要性を強調し、ジョセフHCも「ラグビー王国」の手法だけでは不十分と感じ、自らを変えていったのだそうです。「日本人と外国人、選手とコーチが互いを理解しないとワンチームにはなれない」と感じ、外資系企業の研修を受けるなどの努力をはじめました。キャプテンのリーチ・マイケル選手は「ジェイミーは明らかに勉強していた。そこからチームがかなり変わった」と言っています。外国人選手は覚悟を持って日本代表チームの一員となりました。

今年に入ると4年前以上の長期合宿と練習量も積み重ねたそうです。プロップの稲垣選手は「僕らはコーチ陣の与えるメニューを百パーセント信頼している」と言い、強化委員長の藤井さんは「世界一の練習量をこなした、日本人しかこれだけの距離を走れないし、日本人と一緒に海外の選手も走ることができた」と自信を持っていると言っています。チームの体力、一体感が高まったからこそ可能な猛練習だったようです。

ワールドカップ前、ジョセフHCは「ワンチームになったと確信している」と言っています。「ワンチームとは仲がいいことではなく、プレッシャーに全員で立ち向かい、勝てるチームのこと」だと藤井さんは言っています。

このように目の前にある一つ一つの課題に向き合ったかどうかとその後の成果へとつながります。決して欲張らず、小さなことに一つ一つ向き合えるかどうかです。

今回の台風では秋保中学校も避難所を開設し、8人の方が避難してきました。夜10時に地区巡視したときには境野にある小さな橋に向かって山から鉄砲水が流れ込んでいました。湯向では側溝から水が噴水のように噴き出していました。翌日5:30に回ったときには地域の方々が総出で土砂の除去作業をしていました。

人は困難に遭ったときにその人間性が表れると思います。周りのために何ができるかを考える人、前に話したgiveの気持ちを持った人と、不満や要求が先に来る人、takeの気持ちを持った人です。皆さんには品格のあるgiveの気持ちを優先する人になってほしいと思います。今、秋保中学校として何ができるのかを考えています。先日商品開発で話をもらった音羽さんは丸森に住んでいます。ニュースで知っているとおり丸森は甚大な被害を受けました。メールが来て丸森ブランド米「いざ出陣」が被害に遭ったそうです。丸森を支援するために何かできないかを皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

皆さんは、2学期の目標をしっかりと立ててスタートしました。大事なことは目の前にある課題と向き合うことです。どの学年もそれぞれの将来に向けて大きく踏み出す2学期です。目の前にある課題をごまかさず、逃げないで過ごしてほしいと思います。